

ヒメサユリの丘へ一歩

岩手町の石神の丘美術館

盗食害や掘 困難超え今年も植栽



ヒメサユリの球根を植える参加者

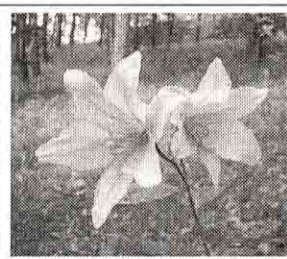
岩手町五日市の石神の丘美術館の屋外展示場で八日、ヒメサユリの植栽活動が行われた。植栽は二〇〇二年の同美術館リニューアルオープンをきっかけに始まり、今回が六回目。美術館の活性化に向け、自生の北限が東北地方南部とされる愛らしい花の群落を夢見る。

活動は同美術館友の会（西田拓広会長）と、同町川口地区の高齢者らで組織する山道シルバーボランティアクラブ（立花弘好会長）の会員計十六人が参加した。

同美術館が本年度、静岡市の特定非営利活動法人（NPO法人）から選定された「恋人の聖地」のプレートをあしらったモニユメン

トにつながる散策路沿いで、トチュウの木陰で生育できるように球根を植えた。高城敬子さん（68）は「たくさん人が訪れてすてきだと思ってもらえるような石神の丘にしていきたい」と張り切った。モニジの苗木六本も植え、枝の刈り払いや落ち葉拾いも行った。散策路を一周し、山野草や花の今後の整

石神の丘美術館屋外散策路で今年6月に咲いたヒメサユリ



備について話し合った。

ヒメサユリは福島県喜多方市（旧熱塩加納村）の群落が有名。訪れたことのある関係者の発案で、同美術館散策路も花を一つの「目玉」に据えようと植栽を始めた。

毎年植えているが、野ネズミやモグラの食害にあって、盗掘されたこともあり、なかなか拡大には至っていない。

今年五月から六月にかけては二十輪ほどのピンク色の花が見られたが、まったく咲かない。同美術館の齋藤桃子学芸員は「ヒメサユリのかれんな感じは恋人の聖地のイメージにもぴったり。初夏の散策を楽しんでもらいたい」と思いを込める。